図書案内　2022年　２月号

担当　2-1　松山　2-2　細川　2-6　地田　2-7　嶋之内

鬼にまつわる本

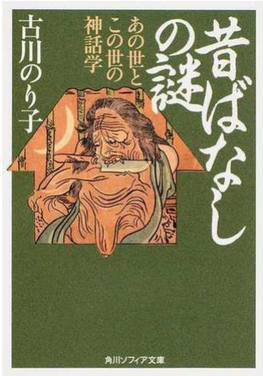
日本における二月で忘れてはならない行事といえば、節分ですね。皆さんは毎年どのように過ごしていますか。恵方巻きを食べたり、豆まきなどが定番ですが、落花生をまく地域もあるそうです。そんな行事に合わせて、今回は「鬼」にまつわる本を紹介します。日本の昔話では悪い存在として語られることの多い鬼ですが、紹介する本の中にはどんな鬼たちがいるのでしょうか。是非探してみてください。本は図書館で貸出しています。

『むかしむかしあるところに、死体がありました。』
青柳碧人

みなさんにも馴染み深い昔話、その昔話の世界で殺人が起こってしまったらどうなってしまうのでしょうか。一寸法師の鬼退治、そして出世の裏にはある男の殺人が関係していたという話を描いた「一寸法師の不在証明」など、５つの作品が掲載された短編集となっています。

サクサク読める鮮やかな昔話ミステリーを是非みなさんも楽しんでみてください。（松山）

冬吉殺しの下手人を、明らかにしてみせようぞ。



『昔ばなしの謎 あの世とこの世の神話学』
古川のり子

誰もが知っている「桃太郎」から、節分の起源とも関係がある「鬼の子小綱」など、様々な昔ばなしについて知ることができる一冊。登場する動物や食べ物、例えば犬・猿・雉、きびだんごなどの役割や効果について、古代神話や地域の伝承によって読み解いていきます。小さい頃に読んだなじみのある昔ばなしを、いつもと違った見方でより深く楽しむことができます。

（細川）

キビ団子は犬と猿と雉をこの世の側につなぎとめ、彼らの身の内にある野生の暴力を抑える力をもつ。

『江戸川乱歩作品集Ⅰ　人でなしの恋・孤島の鬼　他』
江戸川乱歩

「私」の周りで次々と起こる奇怪な死。「私」は友人とともに犯人を捜しているうちに殺人の恐ろしい背景を知ることとなります。この話の中に出てくる鬼は、豆まきで追い払えるような優しい鬼ではなく、闇が深く、人間世界への恨みも深い鬼です。世間の想像する鬼とはかけ離れた姿を描きつつも、私たちに何らかの問題意識を投げかけてくる江戸川乱歩の作品を是非読んでみてください。（地田）

僕は丈五郎の子なんだ。人殺しで、かたわ者製造の、悪魔の子なんだ。

『ばんば憑き』　宮部みゆき

江戸にある手習所「深考塾」を切り盛りする青野利一郎のもとに来客が訪れる。その来客は、紙問屋「大之字屋」の番頭である久八であった。利一郎に何やら頼みがあるらしく落ち着きのない様子をみせる久八。話を聞けば、大之字屋の一人息子である信太郎に「討債鬼」が取り憑いているため、彼を殺してほしいと言う。信太郎の身に危険が迫っていることを知った利一郎は、母親思いの信太郎を助けるために動き出すが――。（嶋之内）

美緒を失ってから初めて、男泣きに泣いた。逃げまい――と決めたのは、そのときだ。

「鬼まんじゅう」を作ってみよう

鬼といえばツノや金棒を思い浮かべる人が多いのではないでしょうか。では皆さんは鬼の特徴を思い起こさせるまんじゅうがあるのを知っていますか？　それは名古屋市を中心として愛知県全域に伝わる「鬼まんじゅう」です。

もとは戦中・戦後の食糧難の時代に、比較的手に入りやすかったさつまいもと小麦を使い、米の代わりの主食として広まりました。腹持ちが良く安価なため、農家において大変重宝されたようです。「鬼まんじゅう」の作り方はとても簡単。１センチ角に切ったさつまいもを、小麦粉、砂糖を混ぜた生地に入れ蒸すだけです(詳しくは下記の HP を見てください)。蒸しパン風にしたり、さつまいもの代わりにリンゴを入れたりとアレンジが効くのも特徴のひとつ。

是非お家で作ってみてください。

【参考】農林水産省　うちの郷土料理　鬼まんじゅう　愛知県　https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/onimanju_aichi.html